

研究ノート

プロジェクト型教育

「箱崎 SDGs デザインプロジェクト」報告

“Hakozaki SDGs design project” report

**P3-9**

中谷 正史

NAKATANI Masashi

造形芸術学科

## 1. はじめに

九州産業大学では、実社会の「現場」を学びの舞台と位置づけ、地域や企業、行政など学内外の組織や人と連携し、プロジェクトの立ち上げて取り組む「KSU プロジェクト型教育」を推進。持続可能な開発目標・SDGs への取り組みを実践している。

九州産業大学造形短期大学部（以下、本学）は、これらのプロジェクトへの参加を必修科目「学外アートプロジェクト」とし、学生が実践力、共創力、統率力を身に付けていくことにつなげている。

筆者は 2022 年より、地域創生に関心のある学生とともに福岡市東区箱崎の箱崎商店連合会<sup>1</sup>（会長：斉藤康平）のまちづくりに参加してきた。2023 年は「箱崎 SDGs デザインプロジェクト」として「KSU プロジェクト型教育」に申請。産学連携として本学 8 名の学生に加え、学内外の学生がさまざまな形で箱崎のまちづくりに関わった。本稿ではその実施報告を行う。

## 2. 背景

福岡市東区箱崎は筥崎宮の門前町として千年以上の歴史と伝統を誇る。明治以降は九州大学箱崎キャンパス（2005 年～2018 年に糸島へ移転）が根を下ろし、「歴史と学問のまち」として賑わいを見せた。本学の前身である九州芸術学院（九州造形短期大学）も、1965 年に箱崎（現在の福岡市東区図書館、1980 年に東区松香台へ移転）に開学している。

九州大学箱崎キャンパス移転によって学生数は激減したが、JR、地下鉄、西鉄の公共交通機関が充実し、福岡市中心部へのアクセスの良さから箱崎・筥崎校区の人口は近年増加している<sup>2</sup>。また、箱崎の約 1/4 の面積を占める九州大学箱崎キャンパス跡地約 50 ヘクタールを活用した国内最大級の再開発事業には、地場 3 グループが応募<sup>3</sup>。その動向は箱崎内外からも大きな注目が集まっている。

長年、箱崎の人々の暮らしを支える箱崎商店街連合会には 105 店舗（2024 年 1 月 31 日現在）が加盟。地域一体でコミュニティを大切にしたまちづくりに取り組んでいる。箱崎商店連合会の運営の中心的存在が箱崎のまちづくりに長年携わり「ハコと場をつくる」を掲げる株式会社 SAITO（代表取締役社長：斉藤昌平）<sup>4</sup>である。建築設計事務所として箱崎内外の建物の設計を手がけながら、箱崎商店街連合会の事務局でもある、まちの寄所「ムメイジユク」を運営し、九大箱崎キャンパス跡地の再開発を含めた箱崎の将来のまちづくりを考える活動や、箱崎活性化のためのイベントを企画運営している。

毎週火曜夜の商店街の定例会には加盟店だけでなく、箱崎キャンパス跡地の再開発事業提案に関わる企業（JR 九州、西鉄、九州電力、西部ガス、福岡銀行、住友商事など）の社員、企業や自治体でまちづくりに取り組む人など、箱崎と何かでつながった人たちが多数参加。自由な対話から新しいアイデアを

出し合う箱崎の「フューチャーセンター」のような場となっている。自分たちの企画の進捗報告に学生が参加することもあり、箱崎の人や文化、美食といった多面的な魅力に触れている。



図 01 毎回多くの参加者で賑わう箱崎商店連合会の定例会

## 3. プロジェクトの目的

本プロジェクトは、福岡市東区箱崎で商店街の活性化とまちづくりを行う箱崎商店連合会と九州産業大学（造形短期大学部中谷研究室・辻嶋研究室、地域共創学部本田研究室ほか）による SDGs への取り組み、箱崎商店街の交流人口増加、まちづくり人材の育成を目的としたプロジェクトである。

筆者は、1998～2004 年頃まで学生・会社員として箱崎のまちづくりに参加した経験がある。自身の体験から、今回は教員として学生と地域の間を適切につなぎ、拡張するデザインの概念や領域を現場で体験しながら、社会貢献の実践の場として箱崎に関わっていきたく考えた。また箱崎の課題や困りごとに、学生ならではの視点や感性、修得中のスキルをもって対応することで、社会のニーズに応えられる社会人の育成、社会への積極的参画と自立へとつなげていきたいと考えている。

## 4. 箱崎 SDGs デザインプロジェクト

### 4.1 ハコザキ×糸島甘夏フードリサイクル

地域共創学部本田研究室が糸島で取り組む甘夏を使用した甘夏かき氷とジュースの製造販売。廃棄されていた甘夏の皮を箱崎商店連合会で引き取りつてフードリサイクルにチャレンジする企画が立ち上がり、調整・実施した。

2023 年 4 月に糸島市の福の浦漁港の食品加工施設で、地域共創学部と造形短期大学部の学生とともに甘夏を絞り、皮を箱崎に運んで冷凍保存。箱崎商店連合会の定例会などで配布し、約 5 店が商品化に向けて甘夏の皮のフードリサイクルに挑戦。それぞれの店舗で甘夏ジャムや甘夏あんなどの材料に加工するなどし、実際に各店舗の商品として試験的に販売された。

参加学生がアルバイトをしているナガタパンが、学生たちが企画した甘夏パンの製造に協力。商店街の定期イベント「ハコザキマルシェ」で甘夏パン 60 個を限定販売し、完売した。





図02 学生・教員と一緒に大量の甘夏を絞り皮を冷凍保存した



図03 甘夏あん入りぼたん焼き（筥崎ぼたんで期間限定販売）



図04 甘夏の皮を材料にした3種類のパンをナガタパンが製造



図05 ハコザキマルシェで甘夏パンを販売（2023年8月20日）

## 4.2 ハコザキオリーブ並木プロジェクト

箱崎商店街が取り組むコンポスト堆肥を活用したオリーブ並木プロジェクトに参加した。オリーブ用の大型の素焼きの鉢の入手が課題となり、本学陶芸専攻の辻嶋寿憲教授に相談。大物制作の課題作品をオリーブ鉢とすることで、本学の陶器のリサイクル土を再利用すること、完成した鉢を商店街に寄贈することなどを調整し、実現した。陶芸専攻の学生12名が商店街を訪ね、話を聞き感じたことを鉢のデザインに表現。12の個性的なオリーブ鉢が完成し、オリーブ鉢の設置希望店舗に寄贈した。

オリーブ鉢は店頭での会話のきっかけになることも多いようで、次年度の寄贈に早くも期待の声が寄せられている。



図06 箱崎のまちを歩いてデザインしたオリーブ鉢と寄贈プレート



図07 商店街の加盟店と学生でオリーブ鉢の寄贈・鉢植え式を実施



図08 設置されたオリーブ鉢をまち歩きで見学する陶芸専攻の学生たち



### 4.3 ハコザキマルシェ・ハコフェス

箱崎商店連合会の地域活性化イベント「ハコザキマルシェ」(月1回 JR 箱崎駅前広場にて開催)へ複数回参加した。甘夏パンの販売やかき氷の復活販売など、マルシェが本プロジェクトでのさまざまな活動のお披露目の場となった。

箱崎の夏の風物詩だった上杉商店(豆腐や氷などを販売)のかき氷販売が店主の高齢化により2022年で終了。箱崎商店連合会で譲り受けたかき氷の機械を使って、かき氷を復活販売しようという企画に本学と九州大学の学生2名が名乗りを上げた。他の学生たちも加わり、2023年の夏休み期間中の週2回ムメイジユクの軒先で販売した。<sup>5</sup>



図09 かき氷の準備をする学生たちと見守る上杉商店店主

早朝のテント設営から終了後の撤収まで携わるようにした。本学学生は美大生という立場で関わっているため、段ボールのゴミ箱に燃えるゴミ等の分別がわかりやすくなるように絵を描く仕事、商品の値段を知らせる即席の手描きの看板づくりなども頼まれたりした。制作時間のある授業課題とは異なるものづくりを体験していたようだ。

自分たちできることに汗をかきながら、同じ場所で同じ時間を過ごしたことで、箱崎商店連合会の人たちに学生一人ひとりの特徴や個性も伝わり、記録映像のスタッフから動画撮影を任せられるなど、人と人の自然な交流が広がっていった。



図11 箱崎の街の人たちと一緒にマルシェの設営から撤収まで関わる



図10 学生がデザインした上杉商店復活かき氷のチラシ



図12 かき氷販売に並ぶマルシェのお客様(2023年8月20日)

復活かき氷販売は、8月と10月の「ハコザキマルシェ」、放声会期間中に開催された9月のイベント「ハコフェス」でも実施。糸島の甘夏かき氷ともコラボレーションし、本学と九州大学の学生たちが地域の方や子どもたちに、継承されたかき氷を作って販売した。

9月16～17日に開催された「ハコフェス」ではミュージシャンやアイドル、コスプレイベント、全員で踊る「ハコのわダンス」などが行われた。学生にとっては箱崎の伝統行事や日本のカルチャーを体験しながら、地域の活力を感じる体験となった。

「ハコザキマルシェ」「ハコフェス」などのイベントには毎回、



図13 箱崎駅前で開催されたハコフェス(2023年9月16～17日)





図 14 甘夏かき氷を購入したコスプレイヤーと販売を担当した学生たち



図 15 「ハコのわダンス」の輪の中で動画撮影をする学生

#### 4.4 ハコロジ (マップづくり)

箱崎商店連合会に関わるクリエイター（編集者、デザイナー、ライター）が企画する箱崎エリアのマップ制作に、造形短期大学部（デザイン作業補佐を主に担当）と地域共創学部（リサーチを主に担当）の約 8 名が学生スタッフとして関わっている。プロジェクトを「ハコロジ」と名付け、マップの編集コンセプトやリサーチ、取材、レイアウトなどの作業工程のすり合わせで定期的に集まり制作を進めている。この活動を耳にした東区役所の職員の方も定例会に参加。マップは 3 月下旬の完成を予定している。



図 16 社会人、学生、区役所職員が集まりマップづくりの意見交換



図 17 会議でマップデザインの考え方をプロのデザイナーから学ぶ

#### 4.5 その他の活動について

年間を通じてさまざまな箱崎のまちづくりに関わってきたことで、街の人から顔と名前を覚えられた学生も増えてきた。本プロジェクトの中心メンバーである甲斐陸斗（造形短期大学部 2 年）は箱崎商店連合会の方に稀少な物件を紹介してもらい、2023 年 5 月に箱崎に引っ越した。9 月の放生会では千年以上続く伝統行事「御神幸」に参加するなど、箱崎在住の大学生として暮らしている。また自身で「日日食堂」という朝ごはん会を立ち上げ、月 1 回まちの人たちに朝食を振る舞っている。卒業研究では箱崎の歴史を紐解きながら、かつて箱崎にあった「ハコザキ ハトサイダー」の復刻デザインと商品化に取り組んだ。



図 18 食材やテーマを楽しむ朝食会「日日食堂」（主催：甲斐陸斗）



図 19 商品化に向けて動いている「ハコザキ ハトサイダー」（甲斐陸斗）



他の参加学生もさまざまな形でまちのプロジェクトに関わった。箱崎商店連合会のYouTubeチャンネル<sup>6</sup>で公開している加盟店105店舗を巡るプロモーション動画「箱崎を歩き倒そう! 箱崎はよかところプロジェクト」の制作に本学から4名の学生が参加。ナビゲーター、カメラマン、制作進行、ナレーターなど、自分たちが修学中のスキルを活かし、制作に協力した。



図20 箱崎商店連合会プロモーション動画のYouTubeサムネイル



図21 商店街を歩いてまわるプロモーション動画の撮影風景



図22 プロモーション動画のナレーション収録

箱崎在住のアーティスト・銀ソーダ（九州産業大学芸術学部出身、箱崎の銭湯跡地・大學湯を運営）が東区芸術文化祭の一環で宮崎宮参道のライブイベント「BLUE WAY - 私たちが創造する青の道」（主催：箱〇道実行委員会<sup>7</sup>）に出演。その動画撮影・編集を依頼されるなど、箱崎商店連合会での活動が知られ、他のまちづくりの団体からも相談を受けるようになった。



図23 宮崎宮参道のライブペインティングを撮影（2023年11月25日）

地域創生に関心のある本学学生2名が箱崎商店連合会の運営の中心的存在である株式会社SAITOの日々の業務を体験したいと、5日間のインターンシップを希望。ムメイジユクでまちの人たちをもてなす1日企画を考えて実施する、など地域とデザインに関わる実践的な課題に挑戦した。

大学で学ぶデザインが、どのように社会とつながり、人の役に立っているのかを体験できよう。



図24 株式会社SAITO インターンシップでのプレゼン風景

## 5. まとめ

箱崎は昔も今も、懐の深い街である。スタートしたばかりの本プロジェクトからさまざまな活動が生まれた理由としては、まちづくりに関わる人たちを中心に箱崎が常に社会にひらかれたまちであること、九州大学箱崎キャンパスの移転完了で箱崎の大学生が激減した中、本学学生の日々の行動が箱崎の人たちの心をつかみ、地域の若者として親しみを持っていただけたことなどが挙げられる。

地域の人々と交流する中で新たな課題も見えてくるかもしれないが、地域におけるデザイン活動の実践の場として本プロジェクトを継続していくことで、本学が社会にひらかれた教育機関として認識されるきっかけとなれば幸いである。今後も参加学生と箱崎の間を適切につないでいくことで、信頼関係を育みながら箱崎のまちづくりと本学の発展に貢献していきたい。

## リファレンス

### 1 箱崎商店連合会 Web サイト

<https://hakoshoren.org/>

### 2 「福岡市東区の校区別人口の推移」西日本新聞 me（2024 年 1 月 24 日閲覧）

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1165714/>

### 3 「九州大箱崎キャンパス跡地の再開発、地場 3 グループが応募 九電、住商、トライアル」西日本新聞 me（2024 年 1 月 31 日閲覧）

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1173517/>

### 4 「ハコと場をつくる」株式会社 SAITO

<https://www.sa-o.com/>

### 5 「箱崎の夏の風物詩「ふわふわかき氷」継承したのは地元大学の 2 人」西日本新聞 me（2024 年 1 月 31 日閲覧）

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/1121161/>

### 6 箱崎商店連合会 YouTube チャンネル

[https://www.youtube.com/@hakozaiki\\_shoutengai](https://www.youtube.com/@hakozaiki_shoutengai)

### 7 箱〇道 Web サイト

<https://www.hakomarudo.com/>

## 参考文献

新山 直広, 坂本 大祐, 中西 拓郎, 小板橋 基希, 吉田 勝信, 吉野 敏充, 佐藤 哲也, 迫 一成, 羽田 純, 長谷川 和俊, 土屋 誠, 今尾 真也, 稲波 伸行, 堀内 康広, 小林 新也, 森脇 碌, 安田 陽子, タケムラナオヤ), 古庄 悠泰, 佐藤 かつあき, 福田 まや. おもしろい地域には、おもしろいデザイナーがいる: 地域×デザインの実践. 初版. 学芸出版社. 2022. 192p

佐藤 将之, 馬場 義徳, 安富 啓, 日経アーキテクチャ. まちづくり仕組み図鑑 ビジネスを生む「地元ぐらし」のススメ. 初版. 日経 BP. 2022. 208p